

(4) 調査結果・予測結果の概要

現地調査結果の概要

現地調査結果の概要を表 1.14に示す。

表 1.14 現地調査結果の概要

調査項目	調査結果概要
水質 (SS)	四季の調査結果は、上層で3～8mg/l、下層で3～10mg/lの範囲で変動していた。とくに夏季は上層で比較的高い濃度がみられたが、植物プランクトンの発生によるものと考えられた。また、冬季では卓越する季節風により鉛直混合が大きくなり、浅海域の下層では巻き上げによる高濃度のSSがみられた。なお、年間平均は上層で5mg/l、下層で6mg/lであった。
水質 (水温、塩分)	四季の鉛直分布の傾向によると、調査対象海域では冬季以外はおおむね海面下3mに密度躍層が存在している。冬季は湾奥の1級河川河口部周辺は弱い成層がみられるが、その他の海域は鉛直混合が発達している。 水平分布をみると夏季の湾奥は高温、低塩分であり、河川水の影響が大きいことを示唆している。
底質	粒度分析結果によると、埋立予定地周辺の底質は、シルト・粘土分の割合が高い。
溶出速度等	既存のデータと同様の結果が得られた。底質の性状にほぼ対応した値を示していた。
流況	上層の恒流は湾奥及び湾の南部に流入している1級河川の淡水流入量により湾口へ向かう密度流が卓越している。この傾向はとくに夏季に顕著である。また、上層から中層にかけては湾奥に時計回りの環流がみられる。 潮流に関しては調和解析によると、半日周潮のM ₂ 分潮成分が卓越しており、潮流楕円の長軸の大きさはおおむね20～30cm/sである。